



なぜ地域移行するのか

大きな理由は①教員の働き方改革、②生徒が求める活動の持続可能性です。①は休日の出勤や専門外の種目を担当するなどの負担を減らそうというもの。②は少子化によって廃部やチーム編成できないケースが増えたことです。また、既存の部活動にない種目(ダンス、バドミントン、料理など)を望む声や、複数の種目を経験したいという声も子供から出ています。

明石市はどうなる??

明石市の方向性としては、①現在の中学校区単位を継続②ひとまず現在の種目・活動で移行、③講師謝金等を家庭に負担させず、現在と同様に部費(それぞれの部による)や交通費を家庭で負担、というもの。

地域移行が具体的に動き出しているのは剣道(24年度に市剣道連盟によるモデル事業を実施)で、25年度は柔道が加わります。

ひとまず休日の移行を目指しますが、将来的には平日も変わります。指導者確保の難しさから活動日数の減は避けられないと考えますので、同じ種目でも活動コンセプトの異なる団体が生まれたり、複数種目への所属が可能になることが期待されます。

部活どうなる？ 明石の方向性を解説!!

中学校の部活動が大きく変わります。国が地域移行(展開)のガイドラインを示し、2023年度~2025年度に休日の部活動を地域クラブ化、26年度~31年度に平日も同様に移行することを目指すと言われています。大会は?費用は?指導者は?明石市からの情報発信が求められています。

それぞれの良い面

明石市以外の自治体では、生徒数の減少が前提としてあり、校区を取り払って実施団体を公募する方法が多く見られます。この場合、生徒が参加したい種目、回数(頻度)等を選べるメリットがあります。その反面、活動場所が遠くなるケースや、月謝が民間の習い事レベルになるケースがあります。

どちらにせよ共通の課題は、指導者の確保と家庭の費用負担。これまで教員が担ってきた部分をどうやって補うかが大きなカギになります。子供に関わる立場ですから、指導力はもちろん各種ハラスメントへの知識や研修も必要になります。

情報発信と共創が不足

公募スタイルであれ明石市の考え方であれ、市民への情報発信と議論が重要です。

「神戸市は部活動がなくなるんでしょ?」と明石の人に聞かれることが多くありますが、これは明石市からの情報発信が不足していることの表れ。

共創を掲げる明石市は、このテーマこそタウンミーティングでじっくり議論すべきです。市の方向性を示し、反対意見も受け止めながら、何を残し何を考えるのか、子供たちも含めて考えましょう。

中西レオのおもいきり!!

中学校部活動の大幅改革が迫られています!

理由1 教師(顧問) そんな余裕ない!

理由2 少子化によりメンバーが集まらない

部活より学校の授業カリキュラム作成を優先する流れです

深刻な教員の人手不足... ありません

休日... いけない

これも時代の流れ 教職の本分は子どもの教育

多様な人気種目の

そこで次世代の中学部活動 担い手は...

インストラクター

地域スポーツ団体

将棋・囲碁・卓球 etc...

神戸市は26年 秋より完全移行 (平日も含む)

田名 田名 コンパツ

神戸のような 部活動の 公募スタイルが 全国で一般的

明石市の取り組み

- 中学校区の枠組みを維持
- ひとまず休日のみの地域移行を目指す
- 学区内の移動
- 子ども人口増の明石市は移動や会費負担が生じにくい方向で移行を進めている
- 神戸は会費

神戸と明石 部活動取組みの違い

神戸 市場に委ねる

明石 校区の枠組み維持

最大の問題は部活動の指導者確保

変化を前向きにとらえるためにも今こそ市民の議論・対話が必要なのです!!

いみじいおもいきり!!